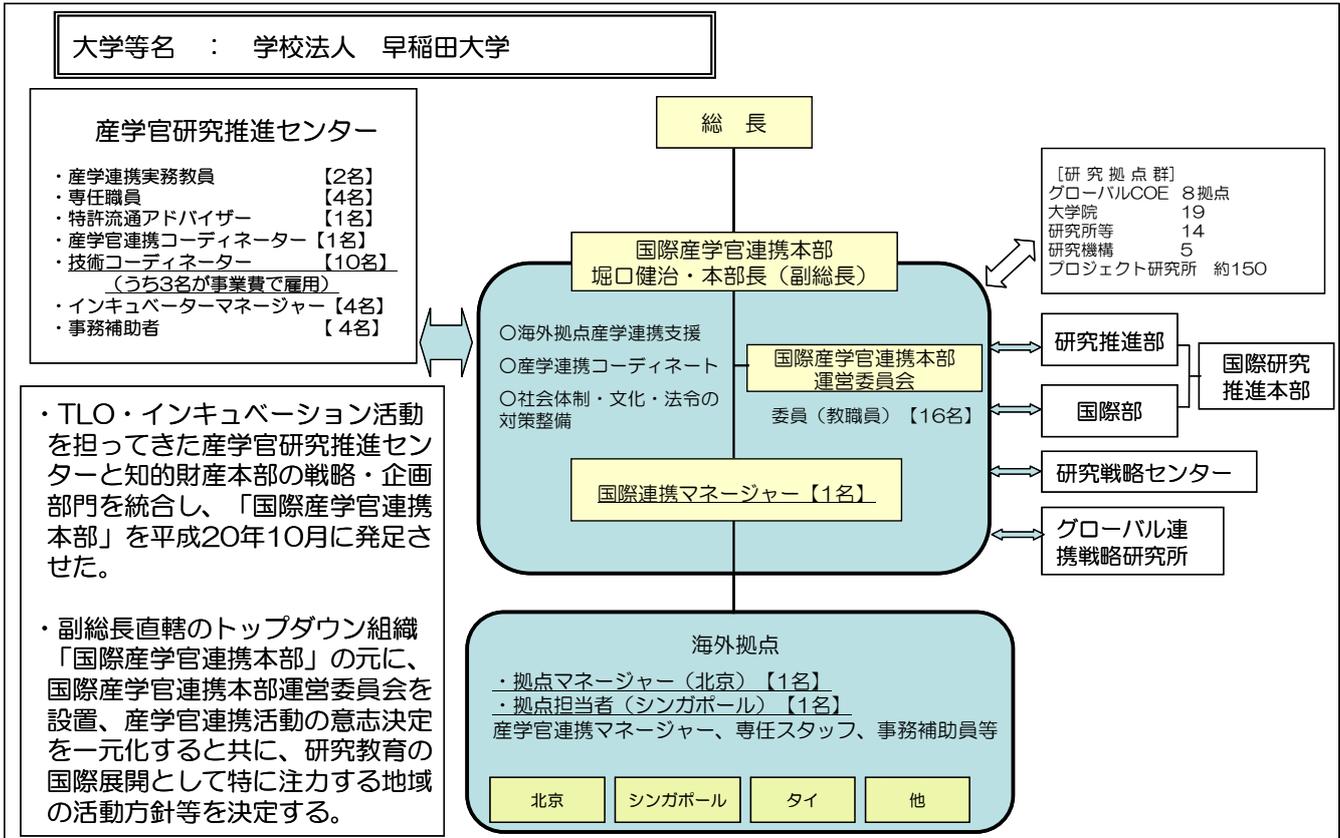


早稲田大学

○ 産学官連携体制図



・TLO・インキュベーション活動を担ってきた産学官研究推進センターと知的財産本部の戦略・企画部門を統合し、「国際産学官連携本部」を平成20年10月に発足させた。

・副総長直轄のトップダウン組織「国際産学官連携本部」の元に、国際産学官連携本部運営委員会を設置、産学官連携活動の意志決定を一元化すると共に、研究教育の国際展開として特に注力する地域の活動方針等を決定する。

○ 成果事例

シンガポール有力機関 (A*STAR, NUS)との連携

学校法人 早稲田大学

要約

国際的な学学連携の一つとして、NUSの理学部及び工学部とMOU(Memorandum of Understanding)を締結し、NUSのMechanobiologyグループと本学先進理工学部を中心とするグループの共同研究が始まった。平成16年から展開していた(株)オリンパスとの共同出資研究所WOBRI(早稲田・オリンパスバイオサイエンス研究所)の後継となるWABIOS(早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所)を開設した。同時にA*STAR(シンガポール科学技術研究庁)との間で、共同研究を促進し有能な研究者を育成することを目指して協力する旨のMOI(Memorandum of Intent)を締結した。

WABIOS開所とA*STARとの調印式



NUSとの調印式



産学官連携のきっかけ (マッチング)

・NUSとは包括協定を既に結んでいたが、特にMechanobiologyグループとの連携を強化するため戦略的にNUS理学部・工学部とのMOUを締結した。

・2004年からシンガポールに進出しているWOBRI後継の新研究所WABIOSの活動を活性化するため。

知財管理 (特許化、知財保護) ※

両機関の共同所有が原則。案件ごとに両機関で契約する。

成果の概要

成果内容の事例

●WABIOS開所と有力研究機関との国際連携

本プログラムの実施戦略として、海外企業との直接的な接触だけでなく一段置いた海外マッチングファンド、大学、研究機関との連携を深め、それらの機関を含め企業参画を促す産学連携を進める方策を取ってきた。そこでシンガポールにおける国際産学官連携活動の一貫として、NUS(シンガポール国立大学)の理学部及び工学部とのMOU(Memorandum of Understanding)を平成21年7月締結した。具体的には、NUSのMechanobiologyグループと本学先進理工学部を中心とするグループの共同研究が正式に始まった。

一方、平成16年から展開していた(株)オリンパスとの共同出資研究所、WOBRI(早稲田・オリンパスバイオサイエンス研究所)を発展的に解消し、平成21年9月、WABIOS(早稲田大学バイオサイエンスシンガポール研究所)を開設した。WABIOSは本学単独で運営する、初の本格的なバイオ系在外研究拠点である。開所式と同時に、A*STAR(シンガポール科学技術研究庁)との間で、共同研究を促進し有能な研究者を育成することを目指して協力する旨のMOI(Memorandum of Intent)も締結した。現在は、①新しい細胞生物物理学の構築、②医薬品や診断法の開発プロセスの構築、③バイオ医薬品・医療機器の開発に向けた研究、④脳神経疾患の診断と治療に向けた研究などをテーマに、シンガポールに集まる世界屈指の研究者たちとともに連携・共同・融合研究を展開し新しい学問領域を開拓することを狙い、研究活動を開始した。

共同研究 ※

平成21年7月15日
NUSとMOU結
平成21年9月15日
A*STARとMOI締結

連携機関

- A*STAR (シンガポール科学技術庁)
- NUS (シンガポール国立大学)